５２　銀座煉瓦街計画

2008・4・18

1　鉄道建設

1）1867（慶応３）亜米利加人ポートマン　　東京・横浜間鉄道建設の権利をうる

2）1870年３月　東京（新橋）――横浜間鉄道建設の着手　　イギリスで募集の公債

3）エドモンド・モレル　　狭軌　　大隈重信の反省　　インフラ投資のあり方

4）兵部省の妨害　　路線の変更（民部省所管）

5）1872年５月７日　横浜－品川間　仮営業

同年９月12日　全線開通　　盛大な開通式（新橋・横浜）

2　外国向けの都市整備――銀座煉瓦街

1）首都東京の玄関口――新橋

2）東京府知事　由利公正　　欧風首都の姿　洋風の街並み

3）朝鮮使節を迎える城門――新橋北詰　　新井白石の提案

4）1872年２月　和田倉門　　大手町、京橋、新橋大火　　3,000軒

5）木造建築の禁止

3　煉瓦街計画の具体化

1）資金　　民活　⇒　政府出資＋建物分譲

2）外交政策としての街づくり　　＞　　不燃化都市

3）計画　イギリス人ウオートルス

4）道路幅員　　７間　⇒　15間

5）車道、中央８間　3.5間の歩道　　街路樹（松，桜，楓）　→　柳

6）資材調達　　煉瓦工場（小菅）

モルタル工場（深川）　⇒　　浅野セメントに払い下げ

7）連続二階建て　バルコニーと円形の列柱　　ジョージアンスタイル

8）1873　メイン通りほぼ完成　　1887頃　ほぼ完成

「二層の高楼、陸続として蒼空に聳ゆ・・・石室は即ち英京倫敦を模し、街道は即ち仏京の巴黎明に擬す。またなんぞ万里の波涛を越え、その国都に至るを用いん」（服部撫松『新東京繁盛記』）

4　煉瓦街の実態

1）資金回収困難、旧住民の離散

2）由利公正罷免1872　⇒　大久保一翁（幕府若年寄）

3）風土に合わない、開口部狭く、湿気充満、脚気　　土蔵と共存

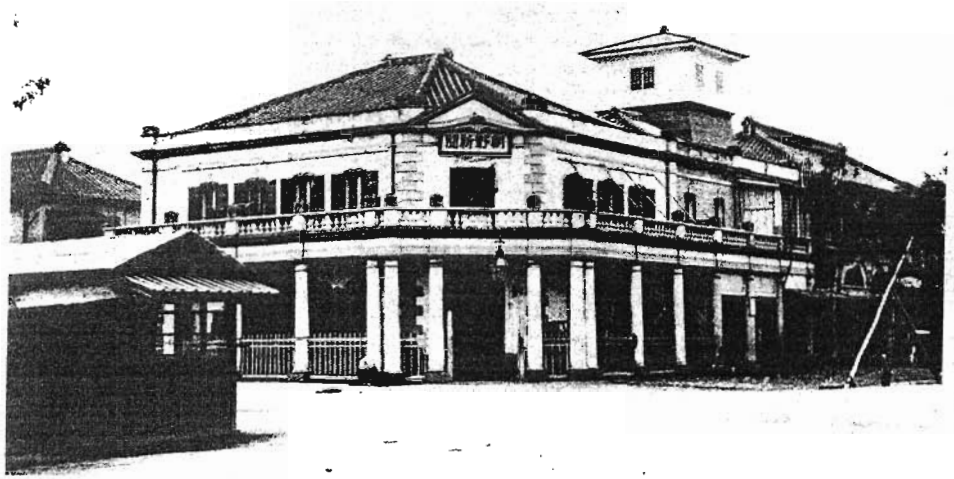
4）　３等長屋（ネズミの小便と雨漏り）　　裏通り　和風居住と洋式居住

5）　欧風化への急ぎすぎ，見世物小屋、空家

6）　新聞社の立地　　著名人の入居（森有礼、安田善次郎）岩松煙草

7）　ガス灯建設1874　　歩車道分離、一体化建築、街並み形成

8）　7，８丁目の賑わい――都市構造の変革



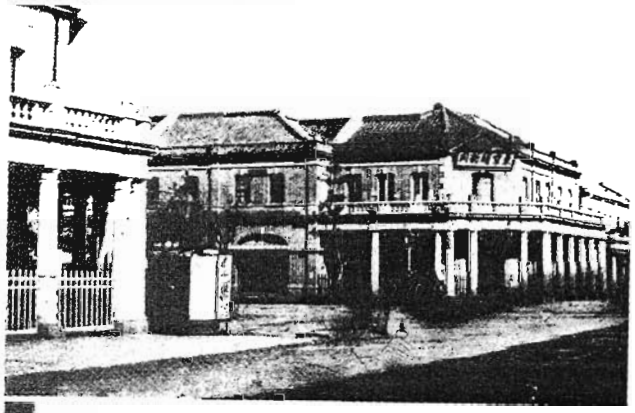


図 14　朝野新聞社（上・写真）

図 15　曙新聞社（左・写真）

上図ともに明治 6 年竣工で，銀座 4 丁目交叉点にあった．

図 16　コベント・ガーデンの現状（下右・写真）

図 17　リージェント・ストリート（下左・銅版画）

右図ともロンドンの名高い歩廊付きの通り．

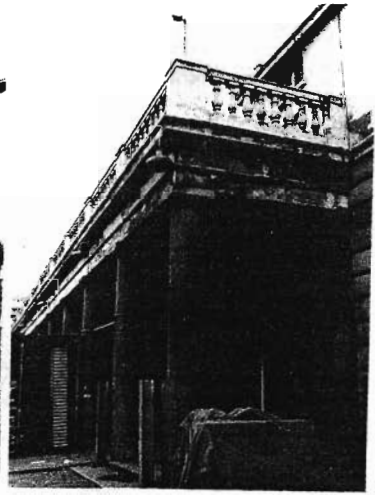


図 12　銀座大通り（写真）

明治 6 年の竣工直後．ガス灯は歩道側に，松，桜，楓の並木はなぜか車道にある．

図 13　銀座大通り（写真）

竣工よりやや日のたった竹川町・尾張町 2 丁目辺を新橋寄りから見たところ．看板や板庇が，ジョージアン様式の禁欲的な街並みを乱しはじめている．左側の遠方には大きな島田組がのぞいている．人影のないのは長時間露出のため．

図8-1　1等煉瓦家屋立面図

図面，写真，銅版画などから平均的な姿を復原したもの．

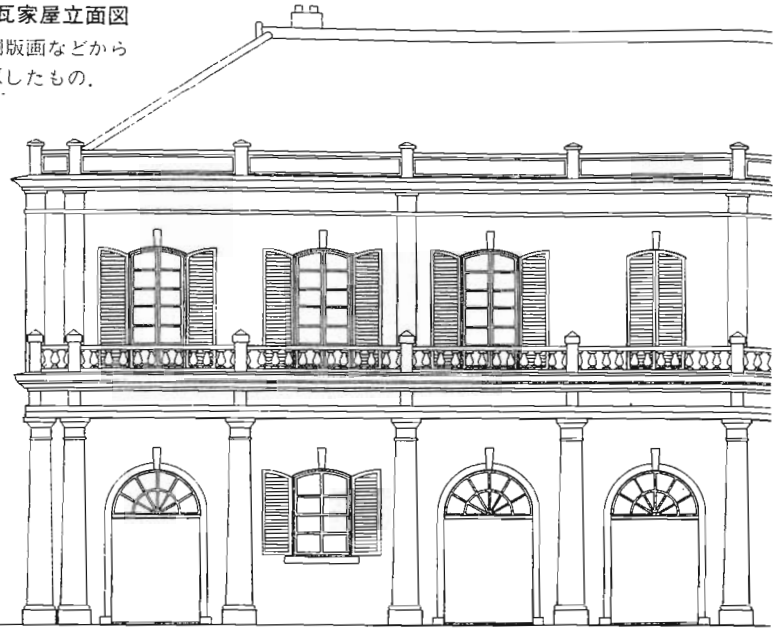


図8-2　同左の断面図

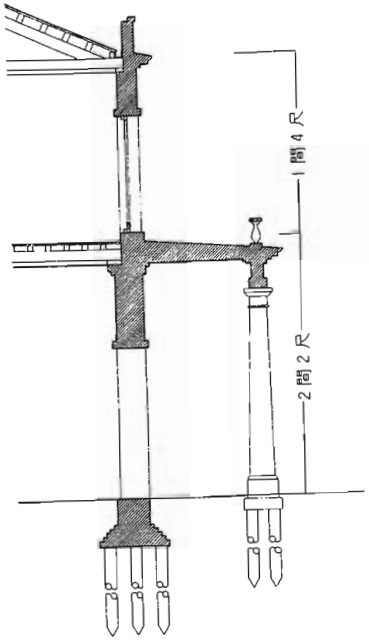


図5　1等煉瓦家屋の実例配置図

（明治6年竣工）

尾張町2丁目24，25番地に建てられた1等煉瓦家屋で，大規模の部類に入り，敷地は大通りから裏通りまで貫く．表に店が，裏に坪庭をはさんで下屋，付属屋が並ぶ構成は大火前（図3）と何ら変っていない．こうした江戸来の町屋の構成法は，ほぼ関東大震災まで続いた．下屋，付属屋のうち煉瓦で作られたのは少数で，あとは蔵造や塗屋造，また木造瓦葺も少なくなかった．

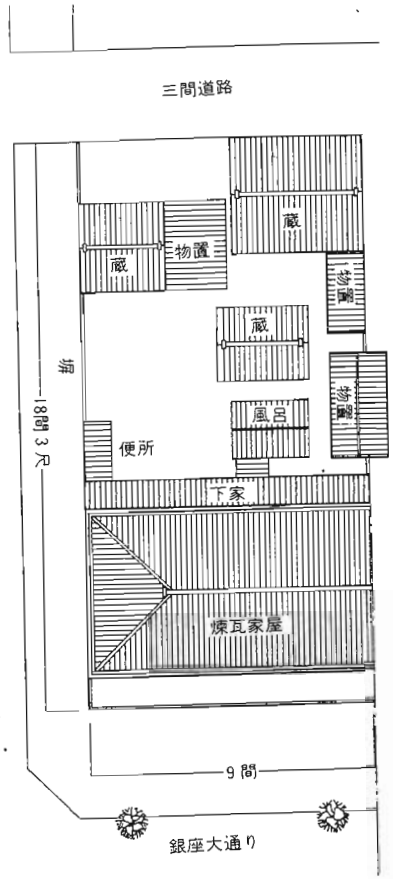


図7　島田組平面図（明治6年竣工）

尾張町1丁目10番地（図4参照）に建つ煉瓦街最大の建物である．島田組は屋号を恵比寿屋といい，本業は江戸来の呉服店である．131畳敷．

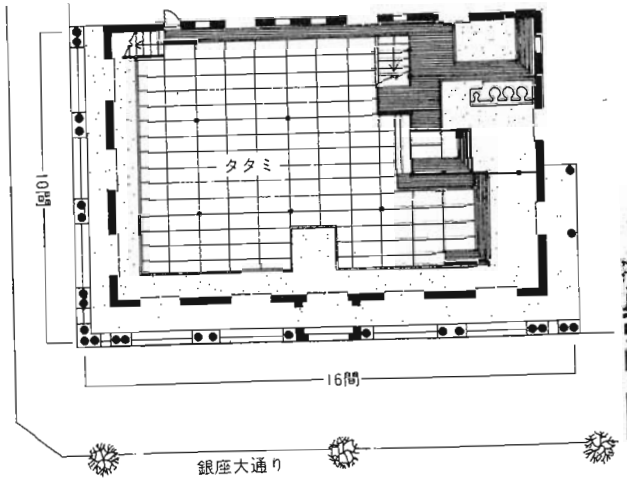
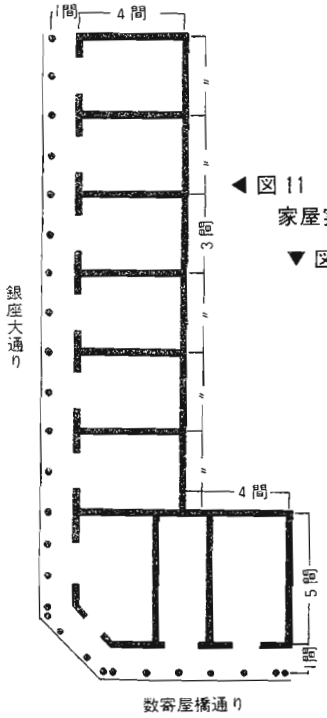


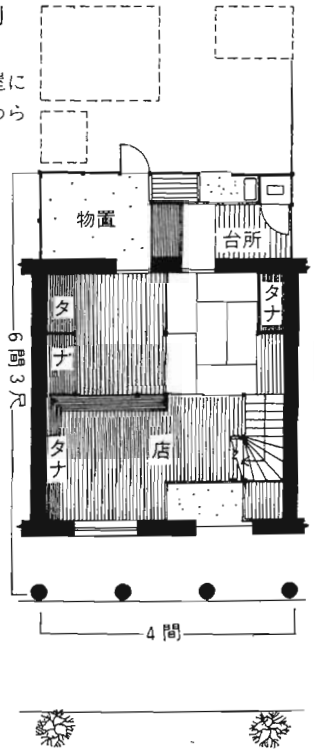
図6　島田組（写真・明治6年竣工）

島田組は竣工後2年して明治8年に倒産し，あとに『東京日日新聞』の日報社が入った．



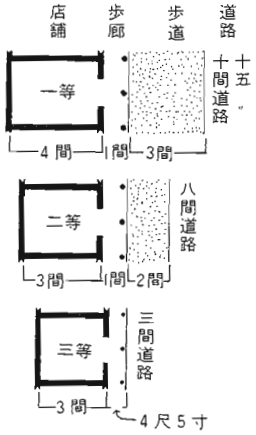
▶ 図9　1等煉瓦家屋の実例平面図

座売りの店，畳の居間，下屋には台所，二階には寝室，昔かわらぬ店構え．



◀ 図11　銀座4丁目交叉点の煉瓦家屋実例平面図（明治6年竣工）

▼ 図10　家屋等級と道路の関係



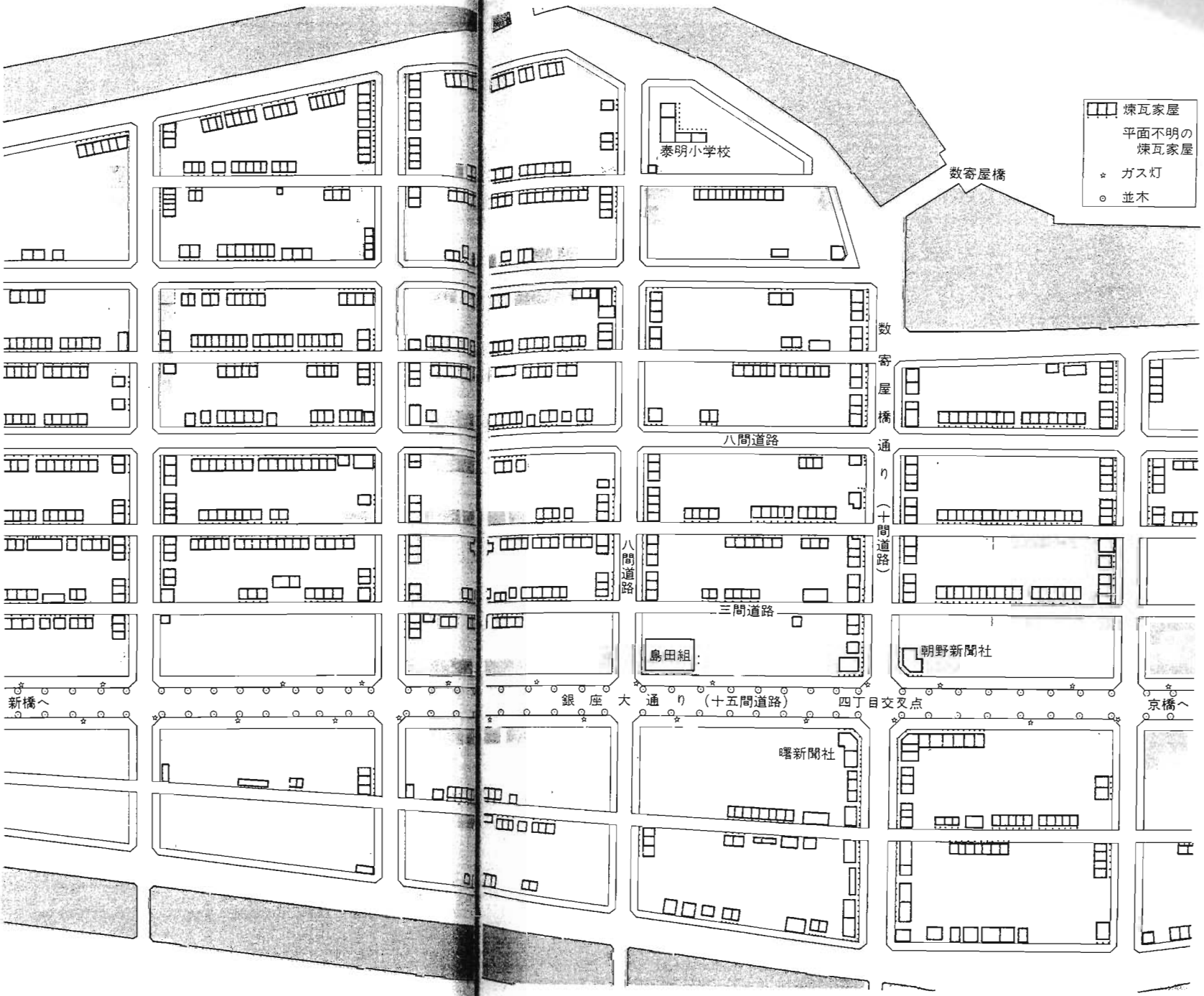


図4　銀座煉瓦街復原図
（明治10年竣工時）

通りに面した煉瓦家屋（店）を復原したもので，裏方の下屋，付属屋の類は省いてある．銀座大通り沿いをのぞく官築煉瓦家屋の平面図は残されており，それによった．十字形のような変った形のものや1店1棟の独立家屋もあるが，多くは箱型の連屋で，三間道路でもしつように歩廊が付けられている．連屋と連屋の間のすき間は，裏に通ずる路地である．これだけの範囲の家屋がたった一人の建築家によりデザインされた例は世界的にも珍しい．